町ぐるみペーロン

町長　齊藤　亀齢

「カンカンカンカン」、鐘が鳴る。競舟だ、オ、盆だ。盆は競舟と共にやってくると言うのが百五十年も培われた町民感情である。ところが去年は鐘の音も聞えず競舟の姿も見えなかった。拍子抜けした町民たちは、張合のない虚脱状態で楽しかるべき盆を過した。出かせぎに行っている子供達も「詰らない盆」を送って不満そうだ。結局良からぬ場所に出入りしたくもなる。

なぜ競舟を止めてしまったのか後悔にも似た憶い出がヒシヒシと人々の胸を痛めつける。だが乗組員が舟が古うなったと言うのでは止むを得ぬかもしれぬ。

そこで何とかして復活をと考えたのが青年達だ。しかも今までは海岸の若人達が主役であったが、今度から町ぐるみのレクレーションとして、全町民の参加を目標とし、乗組員は今まで二十四名乗りを十五名にしたら等、新な構造で積極的な熱意を見せたので、よいよその実現に努力する事にしたのである。先ず町議員の賛同を得経費の点を考えて、今年は三艘にとゞめ、参加組が、かわるがわる競漕することにした。ところが驚くなかれ、一般十一組と中学生六組の参加を申込まれた。むろん従来の大泊赤崎の外に殆んど全部落の参加を得たのである。これが全町一致の動きでなくてなんであろう。

このかげには青年達の熱意と町議、区長、体育係等の御後援の賜と深く感謝している次第である。

由来競舟の歴史は古く一時断続はあったが其の根抵は深く町民の脳裡にきざみこまれている。しかも日本にたゞ二つと言われる珍らしい海の行事なのである。

そこで本町独自の行事と言うのでなく、将来観光資源として重要な役割を果すことにもなり、更に近代スポーツの花がたカヌーの母体となるのである。現に本町から吉野、柳迫のオリンピック選手候補も出しているのである。

今年は舟の都合で九月四日にやったが、当日の盛況は空前で大泊湾の周囲は人山のたかり、車の駐留で警察では交通取締りまでやっていただいた状況、いやはや驚き入った次第である。特有の船による応援も他に見られぬ美しい風景であった。

津奈木

前内閣官房長官　佐藤栄作

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話（津奈木）24番
編集人　岡松　壮
印刷所　緒方印刷所
八代市通町
電話（八代）代表3118番

父権株上昇策

奥さんたちから、「うちの亭主はぐうたらだと思っていたが、そうでないことがよくわかりました。」「おやじになるものの心理が理解できました。」「三等亭主でなく一級亭主でした。」などの投書が多かったというそれは、「おやじ対こども」「松田道雄著」を読んでの感想だったのです。その中から紙面の許す範囲で抜書きしてみました。

「昔のおやじがいばっていたは当然です。おやじには実力があったいまの実力のないおやじが、昔恋しで親孝行を子供に説いたところできまめのあるはずがありません。」

「町人の父親の義務は、子供に職業教育をするとき、勤労自身によろこびをもたせることにありました。」

「いくら働いたところでふとるのは会社だけ、仕事ときたら千べん一律、創造のよろこびなどいうものはツメのあかほどもないというのでしたら……」

「読むものといえば週刊誌とスポーツ新聞だけというのでは、自分の子が中学の中ごろになると、知的水準は親子伯仲ということになりかねません。細君はテレビや新聞で新知識を仕入れますから、おやじはスポーツ以外の社会現象では、家庭中の劣等生というような事態も起ってきます」

「一見ふしだらなおやじが、教育に成功するのは、子どもに節制をおしえても、子供のほうではじめから、そのエセ教育を看破し、おやじもつらかろうと、真実をとらえているからです。徳目を知識としておぼえさせてもだめだ、子供にほれられていることが、教育で一番大事ということです。」

「冬山に登山したいから旅費をくれというのを承知しないと、「お父さんは理解がない。」です。三日ごとにデートにいくというから、よせというと、「わかっちゃいない」ときます。

子供の要求にたいして、親はどこまでゆずっていいか、これは千古の課題です。これにどう対処するかによって、親の親たる器量がきまってくるというべきです。」

「いくら民主々義だからといって、子供とおなじ立場でものをいわねばならぬということはありません。ゆたかな生活体験によって、親は子供の要求の当不当を判断し、子供に親の意見を知らせるべきです。」

この本を読めば、きっと父親は自信を持つようになり、母親も父権確立にどう協力すればよいかがわかります。

岩波新書一五〇円　公民館にも備えてあります。

津奈木の歴史

千々岩頼母

孝女千代塚は実に津奈木文教の源泉の地であります。皆さんは時折こゝに御参りのことと思いますがこゝにいくつかの碑が建てられています。その二二については前に書きましたが時には子供さん方と一緒に参拝され之等の碑についても子供さんにいろいろお話しておきかせをいただき度いと思います。よく知名の方々が津奈木を訪ねられると千代塚に案内を乞われます。一緒にお伴して塚に供えてある花が枯れていたり塚が松の落葉でよごれていたりしますと郷土のものとしてはずかしくなります。我が津奈木のほこりの地皆様と共に美しく気持よく参拝もし千代女を慕いその真心にあやかりたいものです。

あそこに四角な碑が建っておりますが漢文でかいてあるのでなかなか読みづらい様です。あれは天保十五年とありますので千代女のなくなってから百八十年ばかりしてから、今から百年ばかり前に建てられております。この碑は、津奈木総庄屋であった徳富太多七其の子茂十郎の方々に始まり、侍医深水玄甫郷長徳永栄蔵さん方の時に成就している様です。文章は時習館の先生である近藤昌明先生書は全じく時習館の書の先生である秦善という方のもの様です。文字もなかなかよく出来ており公民館にもその拓本を表装して床にかけてありますがなかなかものです。

碑文には千代の孝行の事が書いてあります。内容は肥後孝子伝のものと略同じです。

父は病気で実家にかえり母もまた死し千代わづか九才でよく祖父母につかえ田畑山林に祖父を助け家にあっては祖母に炊事の手助をし長じては賃仕事裁縫等をして金をためて祖父に馬を買って孝養を尽しききん年など祖父母には粟めしをす、め自分は菜草をたべ又老祖父母をからってお寺まいりをさせたりした事などが記してあります。

永久選挙人名簿

これまで、選挙人名簿には、二通りの名簿がありました。一つは毎年九月十五日現在により、その日までひきつづき三ケ月以上その市町村の区域内に住所を有するものの資格を調査してつくる基本選挙人名簿と、も一つは登録の申出をした者について、選挙のつどその資格を調査してつくる補充選挙人名簿がありました。

このたび法律が改正され永久選挙人名簿制度を採用することになりました。このため去る六月二十日を調査基準日として、全国一斉に各世帯全員について選挙資格を調査し、この結果に基づいて、現行の選挙人名簿に必要な修正を加えて、正確に調製しなおしました。

これを一定期間縦覧のうえこれを政令で定めた日（昭和四十一年九月三十日）に永久選挙人名簿とするわけです。

では一体何故永久選挙人名簿とするよう改正がなされたのか…これは近時における急激な人口移動、社会生活の複雑化が選挙人名簿の適正な調製を困難ならしめ、名簿に脱洩、誤載、二重登録を生ぜしめる等、制度上の欠陥を是正し、名簿を正確ならしめ、もって選挙の公正を確保することを企画して改正されたのであります。

その改正の主なものは、第一に申出主義を原則としたことであり第二は現に効力を有する基本選挙人名簿及び補充選挙人名簿を修正して、永久選挙人名簿として確定させることとしたなど、五つからなる関係規定の整備を行ったことであります。これら改正法律は、原則として昭和四十一年九月三十日から施行されることになっています。

今後の改正より私達有権者が、最も大事なことは、登録の申出主義を原則とするため、他の市町村から住所を移したことにより登録の申出をしようとする者は、政令で定める異動に関する文書をその市町村の選挙管理委員会に提出しなければならないことです。

人権擁護委員

本町では田上一智氏と山下清子さんが人権ようご委員であります。擁護（ようご）とはかばいきれると辞書にあります）人権をかばいきれる人が人権ようご委員でありますが、さて人権とは、例えば、家主に無理をいわれてこまっているとか、交通事故にあって、加害者がわりのいわゆる示談屋がきて、何だかんだといいまくって、心ならずも内々でおしつけられた場合などは、人権をおかされたわけであります。

こんなときには人権ようご委員に相談されると、なっとくのいくように法務局（八代に支局あり）と相談したりして、あなたの人権をまもって下さいます。いうまでもなく無料であります。

続交通事故目録

（昭和41年 1 月 1 日－ 8 月23日）

岩城駐在所　河田義定

事故は今も起きている

私が本町に赴任して1年5月になるが、国道県道でこれまでに77件の交通事故があり、死亡5名、内本町のもの2名。

44	1月14日	原付二種（単車）婦人をはねる	重傷一名	倉谷上
45	1月26日	原付二種（単車）と軽四輪衝突	軽傷一名	桜戸
46	1月30日	乗用車民家に突込む		上下門
47	2月6日	いねむり運転貨物自動車転落		千代塚
48	2月10日	三輪車追越違反	車輛破損	沖田
49	2月17日	雪によるスリップ	貨物破損	鎧ヶ崎
50	2月22日	軽四輪車追越違反		上下門
51	3月3日	雨によるスリップ	貨物自動車	鎧ヶ崎
52	〃〃	カーブの速度の出しすぎ	貨物自動車	小津奈木
53	〃〃	カーブの速度の出しすぎ	貨物自動車	小津奈木
54	3月22日	速度の出しすぎ	貨物民家に突込む	町原
55	3月26日	速度の出しすぎ	貨物 重傷一名	小津奈木 倉谷上
56	4月5日	幼児の自転車のりと軽四輪衝突	軽傷一名	泊（県道）
57	4月7日	児童と単車と衝突	軽傷一名	万年地
58	4月7日	幼児軽四輪車と衝突	軽傷一名	駅前広場
59	4月13日	老婦人二輪車にはねられ	即死	浜崎
60	6月1日	車間距離接近追突	貨物	桜戸
61	6月2日	追越不当	貨物	上下門
62	6月4日	追越不当		千代塚
63	6月5日	いねむり運転 水田に転落	接しよく（貨物二輪車）	沖田
64	6月11日	婦人の自転車貨物にはねられる	貨物 重傷一名、軽傷一名	中尾
65	6月26日	乗用車に軽四輪追突		駅前
66	6月26日	中学生軽四輪車にはねられる		沖田
67	7月16日	飲酒運転 単車貨物に突き当る	即死一名	小津奈木
68	7月23日	普通貨物乗用車との衝突		大泊
69	7月30日	いねむり運転 貨物に貨物突き当る		千代塚
70	7月30日	自動車と普通貨物の接触		中尾
71	8月4日	飲酒運転 三輪車	水田に転落	小津奈木
72	8月10日	単車と三輪車の衝突	軽傷一名	中尾
73	8月12日	貨物に単車追突	軽傷二名（魔のカーブ）	染竹
74	8月13日	速度の出しすぎ	両方とも車大破	倉谷
75	8月13日	追越にて正面衝突貨物自動車	重一名 軽一名	千代塚
76	8月16日	老婦人乗用車にはねられる	軽傷一名	郵便局前
77	8月23日	速度の出しすぎ 貨物	水田に転落	上下門

千代塚ドライブイン前のカーブで追越そうとしたら、突然前から来る貨物を認めたがすでに遅し（8月31日）
朝日新聞木村氏提供

県体せまる

九月二十三・二十四日

津奈木町は卓球

いよいよ九月二十三、四日に県民体育祭が、水俣芦北地方でおこなわれるが、期日が近まって心せわしい思いである。

当町であるのはピンポンだけであるが、水俣市では、陸上競技、水泳、軟式野球、軟式庭球、バスケット、ハンドボール、サッカー、弓道、湯浦町では登山、バドミントン、射撃、田浦町ではサイクリング、バレーボール。

津奈木のよさを他郡からきた人に見せるまたとないよい機会が、この九月二十三・四日である。

読書グループ懇談会

司会　千々岩瀬母氏

去る三月に発足した県立図書館の巡回文庫による本町読書グループの懇談会が開かれ集まられたのは読書グループの中心となって御世話いただく方々であった。

○発足間もないので各グループの模様もききそしてよりよく育ち発展する様にといろいろな感想意見希望等をきかしていただきます。

○私は養鶏の本を借りましたが大変ためになり何べんも読み返し之によって鶏舎をつくりヒナから育て、居ますが順調に育っています

○私は石に関する本を借って読みましたがいろいろの事がわかり大変面白く思いました。

○私は石について一向に興味がなかったが私も借って読みたくなりました。

○グループの人達にこんな本が来たと知らせるため本の名を書いて回覧する用紙をすって下さい。

○その様にします。

○私は昨夜うちの子供に本を十分

故郷を憶う

木田大九郎

「古里は遠きにありて、おもうもの」とか「予言者故郷に容られず」とかの意味の句は、勝れたある詩人や思想家の故郷観であろうが、通常人にとっての故郷は、時の経つと共に、又遠きにある程なつかしさを増すものと思う。故郷を愛する心は、「去るものは日に疎し」の古言の個人的関係性と違って寧う時がたつ程心深まるものだ。

私は、昔の高等小学二年生までを津奈木で過ごしたので、津奈木に対する故郷感が深い、故郷を持つ幸せが味あわれるが、わたしの子供の中には私が、熊本・東京・大阪・山口・佐賀・広島等と転々として学校や役所の勤を転じたので、小学校から高校卒まで八回も学校を移っているのがある従って故郷感というものが、はっきりしないだろうと同情している。幼年時代から少年時代と住み馴れた故郷を持つものは幸せだとつくづく感じます。新聞を読んで無数の活字の中から「津奈木」という字があると幾ら小さくても直ぐ目につき、発展的な記事ならば、誇りと喜びがわき、暗いニュースの時は、胸が痛むのを覚える。この実感こそ故郷を憶う真実さが自分にもあるのだと、自分で自分に言い聞かせ乍ら、津奈木の社会的経済的環境が時代の進展に添って伸び行くことを祈っています。時折り思いがけぬ郷里の方が訪ねて貰う事は、喜びの中の大きい喜びです。

（筆者大正二年三月津奈木小学校卒旧姓農沢。昭和三十三年七月広島郵政研修所長退官、現住所熊本市大江町本七百十一電話㊹〇五九六番）

ばかり読んできかせましたが子供が大変喜んで母ちゃんあすの晩も読んで下さいといいました。

○それは大変よいことで親子十分読書とか家族ぐるみの読書などよい家庭のフンイキをつくり誠にけっこうに思います。

○婦人になかなか読書の時間がありませんが。

○読もうと思えば一日に五分か十分位の時間はうまれてくると思います。

○この読書グループは婦人ばかりでなく主人も子供も老人も読みきき話し書などしていきたいものです。

○育児しつけ料理産業その他いろいろの本を妻が読めば夫に話し夫が読めば又家族のものに話して知識技術教養を高めてよりよい幸な生活を送る様にしたいものです。

○斉藤たま様からは読書の感想を届けて下さいました（紹介）

○読書グループが益々発展します様皆様の御協力を御願します。

（発表者は○とし氏名を省きました）

「お千代菩薩」

第五回

矢野洋三作

喜「そうですな、お千代さんのこつが、そうですな、そうで御座っしゅう、八つの歳におっ母さんに死なれて、朝星、夜星、田畑の仕事は、もとより、秋は茸をとって、売り歩き、夜は木綿の賃引きをして、食べるものちゅうたら木の実やら、葛の根ばかり」

庄「よう、体もつゞくもんじゃのう」

喜「祖父さん、祖母さんにゃ、うまかもんば食べさせて、自分は空き腹で夜、夜中まで働いて、まるで菩薩さまの生れ変りですばい」

庄「えろう褒めるのう、でも、お千代が白い飯ば食いよるとば見たちゅうもんが」

喜「と、とんでもねえ、庄屋さまありゃ馬に食わする豆腐のかすですばい。」

庄「え、豆腐のかす？千代がかくれて、白い飯ば食いよるちゅう……」

喜「そりゃ、お高がいったとでしょう。なんにも知らんくせに、あのおしゃべり……」

代官「あ、代官さま」

庄「あ、代官さま」

代官「聞いたぞ、庄屋、予も千代が白い飯を食っているとのこと解せぬことじゃと思っていたがそうであったか」

庄屋、喜三次に

庄「代官さまじゃぞ」

喜三次「ハツ」と頭を下げる。

代「いや、そのまま、そのまま」

庄「代官さま、これが先刻お話し申し上げました、喜三次という者で……」

代「うん、千代の婿にと申しておった若者か」

喜三次ビックリして「はっ」とする。

庄「はい、さようで」

代（喜三次に）「その方、千代のことはなかなか詳しいようじゃのう」

（どぎまぎして）

喜「ええ、あの、その」

代「そこで、一つたずねたいことがあるのじゃが」

喜「へえ」

代「千代の行いは全く見上げたものじゃが、他人の目の届かぬ所では、評判ほどではないとのことじゃが……」

喜「いいえ代官さま、お千代さんは、そ、そんな、決して……」

代「ま、力むな力むな白い飯のことは相わかったが、噂によれば夜は年寄りよりさっさと先に寝てしもうとのことじゃが」

喜（待っていましたとばかりに）「はいはい、そのことでございますが、あれは、お年寄りに冷めたい布団は体にさわると、先ず、千代さんが自分の体であたためて、ほかほかとぬくもってから年寄りに……」

代「うむ！　そうであったか」

煙草葉品評会

八月二十七日本町内のタバコ耕作振興会で品評会が、中央公民館で開かれ入賞者次の通り。

注一番から六番までの人は、本町を代表して八代管内（八代郡市芦北水俣）の品評会に出品した。

優等　福田　増芳
壱等　中尾　兼雄
〃　山崎　宝満
弐等　荒川　隆光
〃　浜田　荘平
〃　次男
〃　坂本　正満
〃　堀田　益雄
参等　下田英蔵　久村　早苗
丸山　勝　高木　正利
門崎　辰喜　坂口　富行
津々木一美　野崎　定
高木慶太郎　田畑　功

反収米の3倍近くの収益をあげて、津奈木町の経済面に多大のプラスをしているタバコ耕作者のめんめん。

スポーツの花開く

早起きソフトボール大会参加チーム二〇、お盆野球大会参加チーム十六、ともに本町としては極限に近いチームの参加をみたことはまことにうれしいことである。

早起きソフトでは、優勝浜崎二位津南中チーム、三位桜戸、竹中お盆野球では、優勝赤崎　二位古川三位浜崎上下門であった。

この大会をやるのに、愛好者、諸君が審判などに協力していただいたこと、特に部長の小島利治君先輩の鶴野輝昭君の献身的な努力に深い感謝の意を呈するに誰も異存はあるまい。

またベーロンが大字対抗で行われようとしている。本町としては破天荒のことで、スポーツの発展上一大慶祝事である。

これまで赤崎大泊部落のベーロンを、津奈木町のものとしてきた変則を、町で舟をつくり、全町から出場できるようにしたことは、これがほんとうのすがたで、その点からすれば復活でなく誕生というべきである。

あっぱれ

浜本民也君・緒方博昭君

あっぱれ浜本・緒方両自衛隊員

本町からたくさんの自衛隊員が入隊いたしておりますが、みな優れた隊員ばかりです。

その中でこのたび新川部落の浜本民也君（浜本忠男氏長男）と、赤崎日当の緒方博昭君（緒方洋氏二男）は、隊員としての勤務成績が優秀で部隊長の表彰をうけております。わたくしたちはその栄誉をたたえますとともに、今後とも隊員のみなさまがお元気で、祖国の自衛のため御健斗下さるよう、お祈りいたします。

さいわいただいま二等陸海空士の募集もおこなわれています。入隊御希望の方は役場総務課へ問いあわせください。

自衛隊員は、国家公務員で本俸の外期末手当等諸手当が支給され、退職金等も支給されます。その外幹部昇進の途も開かれています。

「はと」「つばめ」「はやぶさ」進水

八月二十九日午前九時から、大泊佐々木造船所で、ベーロン艇三隻（はと、つばめ、はやぶさとそれぞれ命名）が進水した。

「待っていました」と近傍の小中学生青年が押しかけ、乗ったがさいご、下りみちを知らないで、桜戸の方に行く、湯之児に行くなど行けば鐘の音と、りりしい若人のすがたに、なつかしみあるいは珍らしさに、桜戸でも家から走り出で、湯之児ではお客というお客はそして、あやまった自由を肩に、無責任な放言を、あえて恥とも考えず、罵声と、怒号と、相手をかえりみない、鳥獣に等しい利己主義が、人間世界に通用してはならない。

人の為に奉仕して決して恩にきせない尊い人。

すべてのものに愛情を持つ美しい人。

たとえ田舎に居ても作業服と共に一生を貫く力強い人。

こんな人間が町にみなぎったとき。信じ、信じられる。堅実な町づくりが生まれるのではなかろうか。

もっと自己を信じ、もっと人を信じ。

邪道を圧倒して行こう。

水俣農業改良普及所長　大園正就

信じられる人間

人間は人間であって人間は鳥獣ではない。

人間は、人間を信じ、人間から信じられ、人間同志が信じ合う明かるい、懐かしい営みをすることが出来る。

人間には、その特権が与えられ、その駆使には、何のちゅうちょもいらない。

信ずる、信じられる。

何気なく使う言葉ではあるが、温かい血と、限りない人間愛が、とめどなく秘められている。

空にミサイルが飛び、陸にひかりが疾走し、海に原潜がもぐっても、大自然の中で、自己を、人を、信じ合う営みが圧倒されてはならない。

検察審査委員

このごろさわがれている田中彰治代議士が、もし不起訴（裁判にかけないという処分）となったら害をうけた人は承知ができないだろうし、国民もまだだまってはいないだろう。このような検察官の処分になっとくできないとき、その処分が正しいかどうかをしらべてもらう制度として検察審査会があり、そのお世話をするのが検察審査員である。本町では六車不二子（六車孝吉氏夫人）さんが任命されている。

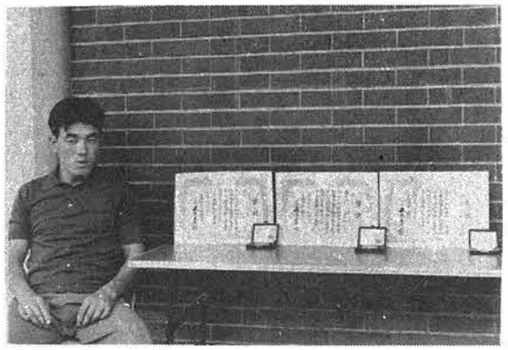
事件を審査してもらっても、特別の費用はいらない。

・みなさんの中に、検察官の処分になっとくできない人がおられたら、泣きねいりしないで、六車さんに御相談ください。

総出で歓迎するというぐあいで、尚いい気になって一日中漕ぎまわった。こぎぞめとしては上々のでだしであった。

カヌーで優勝

吉野信篤君

四十一年度日本カヌー選手権大会が、八月十九日から二十一日にサガミ湖で（神奈川県）おこなわれて、わが吉野信篤君（仮泊吉野信次郎氏次男）は、カナディヤン二人の一万メートルで優勝した。日本一になったわけ。

なお、二人のり千メートルと、一人のり千メートルでは二等であった。千メートルの予選では、日本の新記録を出したことをつけ加えておく。